

興國二年三月二日

行 貞 奉

得江 九郎殿

閏四月十六日。鳳至郡櫛比莊領家中院某、諸岡寺に田地を寄進す。

【總持寺文書】 鳳至郡

三〇四

在判

御寄附 諸岡寺々田事

能登國櫛比御厨二箇村領家一園名内

合陸段者字田ノ谷并今次

右件田地、任永仁四季十一月廿一日預所寄進狀致知行、可抽御祈禱之忠勤、仍重所有御寄附之狀如件。

曆應四季後四月十六日

左衛門尉 平 在判

(永仁四年十一月廿一日の條參照。この文書は、永徳二年十月の總持寺目錄に、中院寄進狀曆應四年狀一通とあるものに當る。但し武家方にして、その袖判は素より前出興國二年三月二日の中院右中將のものとして、

異なり。)

七月。能登の士得江頼員、越前に於ける軍忠を具申して吉見頼隆の證判を求む。

【得江文書】

三〇五

得江九郎頼員申越前國軍忠事

一、奉屬大將吉見大藏(頼隆)大輔殿御手之處、今季曆應正月廿九日於鯖波・脇本・大塩致合戰忠節、同日二室城凶徒等

寄來八王子城之間、爲後攻馳向彼陣致戰功、追歸御敵訖。

一、翌日晦日同城凶徒等燒拂成生、寄來八王子城之間、馳向一陣致合戰、追籠御敵於城中訖。

一、同二月六日凶徒等寄來帆山櫛比郷之間、翌日七日於彼所致軍忠、同夜攻落御敵等訖。

一、同閏四月二日押寄脇本并大塩、燒拂罷在家致軍功訖。

一、同十八日押寄同城籠、致合戰忠節畢。

一、同廿五日攻寄同城籠之時、凶徒等懸出之間、致戰功、追籠御敵於城中訖。

一、同五月十四日同城凶徒等寄來八王子城之間、爲後攻頼員自成生城打出、馳向一陣致合戰、追歸御敵訖。

一、同六月廿五日攻寄鯖波抽出山城等之處、同夜彼城等令落訖。

一、翌日廿六日押寄大瀧城、日々致合戰、同廿八日攻落彼城畢。

右於所々、如此每度致軍忠次第、侍所長井藤内左衛門尉并土田十郎左衛門尉見知之上者、早下賜御證判、向後爲備龜鏡、恐々言上如件。

曆應四季七月 日
(吉見頼隆) 承了 在判

八月十二日。足利直義、攝津親秀の加賀郡倉月莊等の所領をその子女等に分與するを許す。

【美吉文書】 武藏
(外題) 任此狀可令領掌、仍下知如件。

三〇六

曆應四年八月十二日
(足利直義) 源朝臣 在判

讓與
一、惣領能直分

美濃國脇田郷一色・三井・大幡・築瀬・大嶋

上左國田村庄

伊豫國矢野保内八幡濱

備中國船尾郷

伊賀國若林御蘭(但下切尼公一期之間讓之)

和泉國下條郷

上野國高山御厨領家職

武藏國重富名南北

加賀國倉月庄

但岩方村半分、比丘尼明丘壹期之程可被知行之由、裁別拵讓狀。松寺村内廿町方女子伊呂一期之後者、阿古丸可知行之由、裁別拵讓狀之間除之。同村十六町方内參分壹大隅五郎親泰讓與之間除之。